

石川・南吉田葛山遺跡

1 所在地 石川県羽咋郡押水町南吉田

2 調査期間 一九八一年（昭56）六月～一〇月

3 発掘機関 石川県立埋蔵文化財センター

4 調査担当者 浜野伸雄・土上正男

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 古墳時代前期・鎌倉・室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

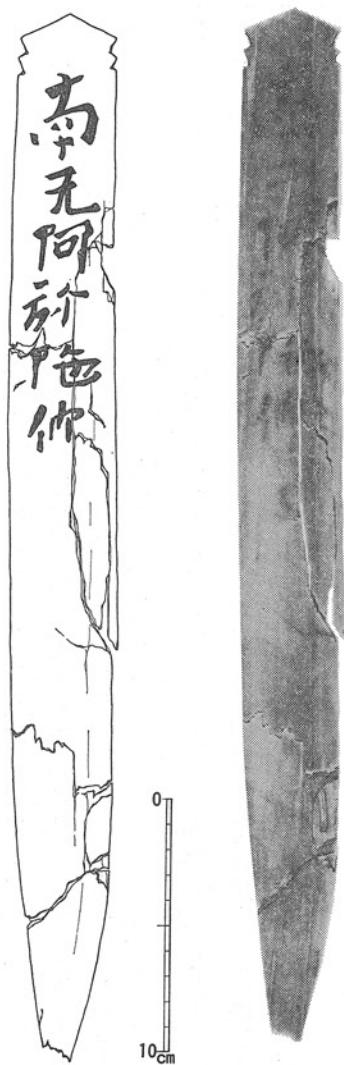
南吉田葛山遺跡は、能登でも有数の暴れ川である相見・宝達の両河川により形成された沖積地に所在する。当遺跡は、建設省による

押水バイパス建設に先立ち実施した試掘調査によつて発見されたものである。現状が水田地帯であったことから、調査にあたつては調査区全体を既設の農道・排水路により第一～第四の調査区に分割して発掘した。遺跡の立地点が沖積地のほぼ中央部であることから、遺構面までは深い所で2mにも及んだ。また、この堆積した土層の観察からは度重なる河川氾濫の痕跡を確認することができ、掲載した木製塔婆もこの氾濫により流入堆積したと考えられる土層から出土したものである。同一土層からは他に、漆器椀や磨滅した土師質土器片も出土しているが時期を明確にしらる程のものではない。また、地点を異にするが、同一レベルの流入堆積土層からは雁又式の鉄鎌も出土している。

当遺跡で検出した遺構は古墳時代の溝状遺構が主で、他に若干の



（石動）



ピットが存在する。溝状遺構はその切り合い関係により、少なくとも三時期にわたり形成されたものと推定している。

第一調査区からは大溝を含む十二条の溝状遺構を検出した。遺構からは杭をはじめ曲物の底板・板状木器・土器片等が出土している。特に、一号溝と七号溝（大溝）が近接する付近一帯には多量の杭や木材が集積しており、大溝からの取水施設の存在が考えられる。また、第四調査区で検出した十三号溝は、覆土層が單一であることや溝上面から勾玉・横瓶・甌等が一括出土していることなどから、当溝を廃棄する際に、溝埋めの祭祀が行なわれたことが窺えるものである。

以上のように、検出した遺構・遺物からはいまだ南吉田葛山遺跡の性格について多くは語れない。しかし、今後の整理作業を通して検討を重ねてゆきたいと考えている。

8 木簡の訳文・内容

「南无阿弥陀佛

(410) × 42 × 5 061

(浜野伸雄)

訂正とお詫び

『木簡研究』第三号の「一九八〇年出土の木簡 石川・白山橋遺跡」に掲載致しました四五頁の図版の説明「白山橋遺跡 一号土壙」は「桜町遺跡 一号土壙」の誤りでした。ここに訂正するとともに執筆者・読者各位に深くお詫び致します。



(岡山北部)

岡山・百間川遺跡群（原尾島遺跡）

ひやっけんがわ

はらおじま

1 所在地	岡山県岡山市原尾島
2 調査期間	一九七九年（昭54）四月～一九八一年（昭56）四月
3 発掘機関	岡山県教育委員会
4 調査担当者	岡田 博・島崎 東
5 遺跡の種類	集落跡
6 遺跡の年代	縄文時代晚期～室町時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡は旭川放水路（百間川）改修計画に伴う事前発掘調査が行われていて、百間川遺跡群に存在する。この遺跡群中、もつとも上流に位置する通称第一微高地・原尾島遺跡では、弥生時代前期から古墳時代にかけての数多くの遺構が検出されている。これらに伴う出土遺物も土器・木製品・金属器・玉類・鏡など質量共に豊富である。遺構の中では、と

『木簡研究』第三号の「一九八〇年出土の木簡 石川・白山橋遺跡」に掲載致しました四五頁の図版の説明「白山橋遺跡 一号土壙」は「桜町遺跡 一号土壙」の誤りでした。ここに訂正するとともに執筆者・読者各位に深くお詫び致します。